

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立三原台中学校
校長 赤阪 博之

中学校区におけるめざす子ども像

人権意識を高く持ち、特別支援教育を通して、児童生徒の自己肯定感や他者への思いやりの心を育てる (特別支援教育の視点に立った誰一人取り残さない教育の実施)

令和7年度 重点目標

- (1) 総合的な学力を育てるための指導の充実・改善
 1. 落ち着いた学習環境を確立するため、学校全体で学習規律の確立をめざす。
 2. 生徒自らが課題や見通しを持ち学習を振り返る主体的な学びを重視するとともに、「わかる喜び」を実感できる授業をめざす。特に、ユニバーサルデザイン化の深化とともに効果的にICTを活用しながら、「学びのコンパス」に向けた授業改善を進める。
 3. 家庭・地域の協働により、基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立をめざす。特に「みんないく」への取組を中心に、心身ともに健康な生徒を育成する。
- (2) 豊かな人間関係で結ばれた集団づくり
 1. 互いの存在を尊重し信頼で結ばれた成長し合う学級づくりを進める。
 2. 色々な人と関わる活動を行い、自他の人の立場を考え、お互いに認めあえる生徒の育成、集団づくりをする。
 3. 生徒一人ひとりが自分のよさや可能性を知り、それらを発揮し未来の創り手となるために「誰一人取り残さない」教育を充実させる。

- 4. 道徳教育において自身の生き方について考えを深め、道徳的な判断力、心情と態度を育てるとともに、教育活動全体を通じて様々な人権にかかわる教育に取り組む。
- (3) 学校・家庭・地域との連携
 1. 広報活動を充実させ、学校の方針や取組の理解をより深める。
 2. 9年間を見通した「学校群」をはじめ、幼保小中高大の連携により、子どもの育ちと学びが連続する「縦につながる教育」を推進する。
 3. 保護者や地域の人々の学校教育への参加促進をはかるべく、「みんないく地域づくり推進委員会」と「学校協議会」との協働、運営の活性化を図る。
- (4) 校内研修の充実と、学校のチーム力の発揮
 1. 日頃から教育活動や危機対応の共通理解を図り、組織的な対応をめざす。
 2. 授業づくりや集団づくりの研修を進め、いじめ・暴力のない安心できる学びの場づくりを進める。

「確かな学び」の現状

基本的な生活習慣の確立とともに、規範意識も身につけている生徒が多く、学習に対しても落ち着いて真面目に取り組んでいる。しかし、生徒自らが自分の考え（気づき、疑問点、課題）を書いたり、見通しを持ち学習を振り返る等、主体的に取り組む意識を高める必要がある。また、「学校群」の重点目標である「特別支援教育の視点に立った誰一人取り残さない教育の実施」に向け、ユニバーサルデザイン化やインクルーシブ教育等、生徒が「居場所」と「出番」のある授業づくりと「わかる喜び」を実感できるよう取り組む。

「豊かな心・健やかな体」の現状

道徳の授業や人権教育等により、様々な視点から自身の生き方や道徳的な判断力、心情や態度について学習している。中学校区でめざす子ども像の目標達成に向け、学校生活のあらゆる場面で自己肯定感を高め、他者と互いに協働して生きていくための豊かな心を育むことが大切である。体育の授業内容の工夫や部活動等で、子どもたちが体を動かすことの楽しさをしっかり感じることができる取組が必要である。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	主体的に学習に取り組む態度・学習意欲の向上	授業研究や校内研修等の更なる充実を図り、指導方法の工夫改善、指導力向上に取り組む。	肯定率85%以上 全教員の公開授業実施	堺市学習生活状況調査 参観・研修委員会討議	年度末 随時	○ ・定期的に校内研究授業を行い、研究協議を実施している。 ・授業ごとに時間を設け、自分の考えを書いたり、振り返りを行っている。 ・教員のタブレット活用の意識が高まってきている。	○ ・年度当初に、学びのコンパスに向けた校内研修を実施。「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところをわかるまで教えてくれる」は90%である。「先生はみんなが授業に取り組めるよう工夫している」は93%である。 ・「勉強で大切なところは繰り返し書くなどして覚える」は86%、「授業の終わりに学んだことを振り返り、分かったこと分からなかったことを自覚した」は78%である。 ・「タブレット等使って先生の話や友達の発表を聞き、自分の考えを伝えることができますか」は72%、「話し合いや集めた資料から自分の考え方が変わったり深まったりした」は81%である。	○ ・タブレット等の使用についてタブレットの使用のみではなく、「書くこと」「読むこと」などにも力を入れてほしいと思います。
			授業でノートに自分の考え(気づき・疑問点・今後の課題等)を書く時間を設け、生徒が自主的に学びの整理をする。	肯定率80%以上 グループ別公開授業と討議	堺市学習生活状況調査 参観・グループ討議	年度末 随時			
			●ICTを効果的に活用し、問題解決的な学習とともに深く理解したり情報を精査して自ら考える等「学びのコンパス」に向けた取組を進める。	肯定率80%以上 グループ別公開授業と討議	堺市学習生活状況調査 参観・グループ討議	年度末 随時			
確かな学び	基礎学力向上	学びのルールと学び合う集団づくり	落ち着いた学習環境を確立するため、基本的な生活・学習習慣について、教職員が共通理解して取組を進める。	肯定率85%以上	実施報告 堺市学習生活状況調査	年度末	○ ・生徒が授業に興味を持って取り組めるよう工夫をしている。 ・個々の能力に合わせて学習内容を考えたり、つまづきのある生徒には個別対応を行っている。 ・学習の場面にに応じてペアやグループ学習を行っている。	○ ・「授業中は学習に集中していますか」は86%、「学習の準備を整え、授業の臨むことができますか」は83%である。 ・「少人数授業の内容はよくわかりますか」は1年英語80%、2年数学81%である。定期テストが30点未満は、約15%である。 ・「グループやペアで話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決した」77%、「課題の解決に向けて、話し合ったり交流したことで、自分の考えをしっかりと持てるようになった」は80%である。「私は授業の中で内容がわかるという実感があがる」は1年73%2年82%3年89%	○ ・30点未満の生徒が15%という数値なのは、とても少ないのではないかと思います。思います。 ・学力に課題の見える生徒の力を伸ばしてあげてほしい。
			習熟度別少人数授業(1年英語・2年数学)の効果的な活用や放課後個別指導等、きめ細やかな指導を行う。	30点未満人数15%以下 肯定率80%以上	学校教育アンケート 定期テスト	学期毎 年度末			
			●調べ学習や話し合い活動・グループ(ペア)学習を積極的に取り入れ、教え合いをする等、わかる喜びを一人でも多く実感させる。	肯定率80%以上	堺市学習生活状況調査	年度末			
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	心身の調和のとれた子どもの育成	●道徳教育において自身の生き方について考えを深め、道徳的な判断力、心情と態度を育てることで豊かな人権感覚を身につけさせる。	肯定率85%以上	堺市学習生活状況調査 生徒のワークシート	年度末	○ ・全教員によるローテーション授業を実施し、単元ごとに振り返りを行っている。 ・あらゆる教育活動において、達成感が自己肯定感を味わえるような工夫をしている。 ・学校図書館の活性化を粘り強く行っている。	○ ・「学校で人権や命の大切さ、社会のルールについて学んでいる」は94%、「先生たちは自分の相談このつてくれましたか」は92%である。 ・「自分にはよいところがあると思いますか」は75%、「学級はいろいろな活動にまともに取り組んでいきたいと思いますか」は93%、「先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか」は93%である。 ・図書館担当教員が協力し毎日開室するとともに、図書館だよりを定期的に発行した。来室者数は2,420人(昨年度約2,883人)ただ、「1か月に何冊本を読みますか」は1冊も読まないという回答が約49%であることが課題である。	○ ・人としてのアウトプットがどれだけできるかが、AIとの差になってくるのではないかと。思います。 ・自己肯定感の向上に取り組んでもらいたい。
			●あらゆる教育活動の中で、物事を最後までやり遂げる達成感や達成感を得られるようにすることで生徒の自尊感情を高める。	肯定率85%以上	堺市学習生活状況調査	年度末			
			学校司書と連携し、学校図書館の開室日数を増やし、有効且つ計画的な活用を進めることで、生徒が読書に興味を持つよう啓発を促す。	図書室来室者数 経年比較 肯定率65%以上	図書担当教諭 実施報告 堺市学習生活状況調査	年度末			
	豊かな心の育成	生徒指導の充実	「みんないく授業」「睡眠朝食調査」「みんないく面談」を活用し、「睡眠を切り口とした生徒指導」という視点で、生徒に自らの健康について考えさせる。	みんないく面談の実施 肯定率85%以上	みんないく担当者会議 学校教育アンケート	随時 年度末	○ ・みんないく授業や睡眠朝食調査、みんないく面談を定期的に実施している。 ・情報モラルや規範意識について集会や総合的な学習の時間を活用し、意識を高めるようにしている。	○ ・「みんないくの取り組みは普段の生活習慣の参考になっている」では66%(昨年度70%)、保護者は「みんないくは必要である」は91%である。また、「規則正しい生活を送ることができましたか」は80%である。 ・スマホ教室の開催や警察官による非行防止教室、集会では定期的にネット関係を含めたいじめの未然防止に努めた。「いじめは絶対に許されないことである」は97%である。 ・「私は登校時間やチャイム着席など、時間を守って行動している」は88%、「安心して学校生活を送ることができましたか」は84%である。「自分から進んで何かをしてみたい」は1年68%2年70%3年89%である。	○ ・学校は、「子どもの安心感」を作ることができている。 ・「信頼できる大人」として、今後子どもたちに寄り添ってあげてほしい。
			SNSやスマホの正しい使い方等、情報モラルについて理解を深めさせ、ネットトラブルやいじめ防止に努める。	肯定率90%以上	堺市学習生活状況調査 実施報告	年度末			
			規範意識の醸成と、主体的に判断し適切に行動できる生徒を育成する。	肯定率85%以上	堺市学習生活状況調査	年度末			
開かれた学校づくり	地域・校種間連携	地域への情報発信や地域連携及び小中一貫教育の充実	★「学校群」の教育目標や重点目標を共有し、小中教職員が一体となり児童生徒の9年間を見通した教育実践を行い、地域や保護者への発信も更に進める。	定期的な学校群の会議を行い3校で効果検証	実施報告 学校教育アンケート	年度末	○ ・学校群総合会議や代表者会議を実施し3校で情報共有を行っている。 ・健全育成協議会の事業や地域行事への参加を積極的に進めている。 ・通信やホームページ、teturu等で学校の情報を発信している。	○ ・「学校は学校群の取り組みをしていることを知っている」は72%である。また、学校群3年目を終え、小中・小の連携が深まるとともに、9年間を見通した取組も定着してきている。 ・健全育成協議会の事業として、「防災ウィーク」「地域クリーン作戦」「吹奏楽部ジョイントコンサート」を実施し、地域や関係機関との連携や幼児子ども園、小学校、中学校、高校の連携を更に強化することができた。 ・授業時はまほ毎日HPをアップ、Teturuによる発信も積極的に進めた。「学校は学校だより・学年通信・HP等で学校の様子を伝えるよう取り組んでいる」は98%である。	○ ・「保護者」や「地域」も時代とともに変わっていかないといけないと思っている。 ・学校は、丁寧に情報を発信してくれている。
			三原台中学校区青少年健全育成協議会の活動を充実させるとともに、積極的な地域行事への参加等、地域との密接な関係を築く。	参加者 経年比較 協議会での肯定的評価	実施報告 堺市学習生活状況調査	年度末			
			家庭・地域・学校の協働体制を充実させるため、学校通信・学年通信・学校HPで学校の情報を発信する。	肯定率90%	学校教育アンケート	年度末			

校長より(年度末)

・学校協議員からもよい評価をいただき、今後の励みになった。

学校関係者評価者から(年度末)

・学校は子どもたちの教育に尽力している。